ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル 特別公演 in 鶴見

（後援／アメリカ大使館・鶴見区役所）

PROFILE —プロフィール—

高原（たかはら） 守（まもる） （指揮・音楽監督）

ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルの音楽監督および常任指揮者を務める高原守は、国立音楽大学卒業後、ニューヨーク・フィルハーモニック・オーケストラの桂冠指揮者であるレナード・バーンスタインより、彼の下で学ぶ機会が与えられたのを機に1972年4月に渡米した。

76年にニューヨーク・フィルハーモニックのメンバーを中心に構成されていたフィルハーモニア・ヴィルトージ・オブ・ニューヨークを指揮して、ニューヨーク・デビュー。以来、79年春にニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルの原型である、ニューヨーク・メトロポリタン室内管弦楽団の音楽監督を務め、77年夏には、日本演奏旅行にも参加した。85年には、大阪国際フェスティバルやつくば博などでの演奏旅行で、彼らのニューヨークらしい演奏が好評を博した。

88年からは毎年日本公演を行っており、特に奈良の唐招提寺での演奏が注目され、高い評価を得た。その後も日本の伝統と歴史的に意味深い場所である島根の出雲大社、広島の厳島神社、そして東京の明治神宮などで演奏し、東西文化の見事な融合を創り出して大成功を収めている。また日本を代表するさまざまなジャンルのソリストたちとの共演は、常に話題を呼んでいる。

90年からは8カ国を巡る東南アジアツアーを3回行い、さらに毎年ニューヨーク国連本部での表彰式典の演奏を行うなど、国際交流に大きく貢献している。「生活の中に音楽を！」と願う高原のメッセージは、数多くの合唱団、合奏団や学生の皆さんとのジョイント・コンサートという形で具体化しており、音楽教育にも積極的に参加している。2000年5月31日には、ニューヨークのカーネギーホールにて、東京の福祉施設「ゆきわりそう」に通う障害者で作る合唱団及びニューヨークの合唱団とベートーベンの第九を演奏し、会場は温かい拍手に包まれた。また、2003年の日本公演では、静岡県藤枝市の総合病院にてロビーコンサートが実現。音楽の持つ癒しの力を再認識できる穏やかな空気に包まれたコンサートとなった。クラシックの枠にとらわれないユニークな音楽活動が、益々期待されている。

鈴木健史（すずきたけふみ） （バイオリン）

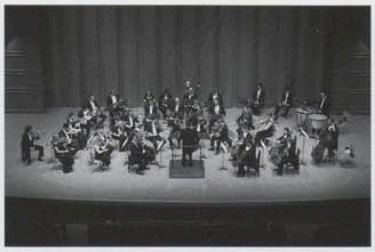
東京音楽大学卒業。鷲見健彰、篠崎功子、堀正文、山口裕之、藤原浜雄の各氏に師事。89年ザルツブルグ夏期国際音楽祭に参加。ディプロマ取得。93年渡米、マンネス音楽院にて矢島広子氏に師事。ソロ活動の傍らバロック室内楽奏者として活動。95年プロフェッショナルスタディ・サーティフイケーション・プログラム修了。ディプロマ取得。同年ボストン大学大学院修士課程に学部長奨学金を得て入学。D.オイストラフの高弟マズルケヴィッチ氏に師事。ニューヨーク、ボストンにおいてリサイタルを開催。

98年帰国。「緑区制30周年記念・緑区民音楽祭新人演奉会」「横浜市国際交流ラウンジ主催コンサート」に出演など、独奏者として活動を展開するかたわら、教育活動にも積極的に取り組んでいる。2002年にはカトリック藤が丘教会での「梅澤弘子＆鈴木健史チャリティ・コンサート for アフガニスタン DUO HIROKO & TAKEFUMI」も好評を博した。

ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル NewYork Symphonic Ensemble （管弦楽）

指揮者高原守が率いるニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルは、1979年ニューヨーク・メトロポリタン室内管弦楽団として発足し、その後間もなく現在の名称に改められ、今年で29シーズン目を迎える。

団員は、メトロポリタン・オペラ・オーケストラのメンバーをはじめとした、ニューヨークを中心に第一線で活躍している演奏家で構成されており、メトロポリタン・オペラ・オーケストラの特色である優れた旋律が、彼らの創り出す音楽に備わっている。またソロ活動に意欲的で、優れたキャリアを持つ有名なアーティストが多数加わっているため、ソロをフィーチャーした作品を多くレパートリーとしている。



毎年、ニューヨークの国連本部で開催されるＵＮＦＰＡ（国連人口基金）の表彰式典では、世界中の受賞国の音楽をアレンジした演奏で、好評を博している。ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルの活動のユニークさは、いかにもニューヨークらしい明るく透明で、ハートにしみるような魅力的な演奏をしているというだけでなく、世界中の若き演奏家達を育て、広く紹介しているという点にある。